

帰国子女・バイリンガル教育（英語補習校）プログラム

— 第6期春季講座・（10才・午後クラス）の内容紹介（1） —

ABCD 学院 学院長 千葉紘一

日本で最初の帰国子女のための英語補習校であるABCD学院での教育について報告します。
今回は、実際に今年の春行われた帰国子女プログラムの春季講座を、具体的に紹介させていただきます。

1. プログラムの目的

現在の日本の教育で欠けている“考える力の育成”と“英語力の維持向上”を目的に、実際にアメリカで行なわれている教育を取り入れ実施するものとします。

では、なぜ、アメリカでの教育を行うか？

今、日本の教育は問題が山積しています。ゆとり教育の廃止、いじめの問題、高校での世界史授業履修もれ問題（実際は、必修である世界史授業の無視）等、これらに対し文部科学省は教育改革と言って、市場競争原理を取り入れる案を検討中です。これで問題の根本的解決となるのでしょうか？特に、高校での世界史授業履修もれ問題について、その後NHKの調査で、校長会会長47名への再発防止についての調査で87%が、「学校の自由裁量にゆだねるべき」としているようです。（日本経済新聞平成18年11月20日号・教育ページ「公教育の使命」御茶ノ水女子大・耳塚教授による。）

これは取りも直さず、受験に関係ない世界史を外すということに繋がります。日本もグローバル化が叫ばれて久しくなりますが、今後益々、世界の中の日本が意識されなければなりませんし、世界史が諸外国を理解する重要な教科であることに変わりはありません。それでいいのでしょうか？逆ではありませんか。

日本の教育で根本的課題は何かと言えば、世界がグローバル化し、多様化する中で、また世界情勢も様々に変化する中で、これに対応できる人材を必要とし、このような人材育成が急務です。このような人材育成を行うにはどのような教育システムにすべきかが最重要課題です。また、世界史履修漏れについて言えば、世界史に限らず必修科目にも係わらず、受験科目でないため、これら非試験科目について未修を容認してきたことです。この後者の問題解決には、必修科目であれば全て入試対象とするか、本当に必要としないならその科目を必修から外す等の見直すことが問題解決の方法であり、高校に任せるべき問題ではないと思います。

要は、根本的問題をそのままにして、問題を解決しようとする時、捻じ曲がってしまうのです。従って、ここでは、日本の教育の課題や問題点をカバーするため、敢えて、アメリカの教育の良い点を取り上げ、実施し、補完しようとするものです。アメリカの教育と言うより「知識伝達」から脱却し、「考える教育」を行なっていきたいと思っています。

2. 講座の実施期間

春季講座：4月中旬～7月中旬、4ヶ月12回（24レッスン）
秋季講座：9月中旬～12月中旬、4ヶ月12回（24レッスン）
冬季講座：1月中旬～3月末、3ヶ月11回（22レッスン）

3. 概要

3.1 帰国子女プログラム全体構成およびシステム

本講座をスタートして、丸6年と4ヶ月が経ちました。当初より、本講座は上記目的に合わせイメージ教育の一環として種々の特徴を持たせ、且つ、日本ではユニークな講座を行なってきました。また、お蔭様で、多くの方から支持を得てきました。さらに、当学院として一層充実させ、より良いものをもと模索している段階です。

クラス構成としては、高校、中学生はプライベートレッスン、小学上・中・下級生はセミ・プライベートの形態となっています。さらに、この学期から小学中級と下級生クラスは午前と午後に分け、合計6クラス編成となりました。それぞれに充実していたと思います。いずれにせよ、最大4名のセミプライベート授業で、生徒の質にも恵まれ、理想的な授業ができています。今後共、生徒数は増えることを期待しつつも、セミプライベートレッスンを基本に進めていきたいと考えます。

セミプライベートにこだわるのは、1人1人を大切に、かつ、生徒も生徒同士、および先生やアシスタントとの交わりを大切にしていくことが社会性を培う意味で重要と考える為です。このため、生徒の組合せも重要となってきますし、コスト増は避けられません。これらは、皆様のご理解と、ご支持あればこそ可能となります。また、授業は生徒が楽しんで行なわれることが重要であり、この点も満足頂いております。

3.2 小学生中級クラスの構成およびシステム

まず、この小学生クラスはその学年別に3つのクラスに分けられています。

即ち、8-9オクラス、10-11オクラス、12オクラスです。そして、10-11オクラスは4名以上となったので、午前と午後の2クラスとしています。午前と午後では内容も変えています。即ち、この学期では、午前クラスは主に、サイエンス・バイオを取り上げ、午後のクラスは主に、世界史・米国史を取り上げました。

以下にこの春に行った授業を中心に10オクラス講座を紹介させていただきます。

小学生中級クラスは、クラスの目標として下記としています。

- ① 様々な学問領域に対しての理解を深め、自分の考えを効果的に表現する。
- ② セルフスタディに必要な学習スキルを身に付ける。
- ③ クリティカルシンキングを授業に取り入れる。

上記目的を達成する為の仕組み即ち、システムが作られています。また、内容も後述するように、この目的に合わせ、学期毎に

カリキュラムが作られています。ただし、通常の学校と異なり、授業時間は短い為、サイエンスと社会科や文系学科とをバランスするため隔学期毎に交互に進めています。この学期は、社会科学（アメリカ史・独立戦争）をメインテーマとして授業を進めてまいりました。この学期全体のスケジュールは表-1に示します。

これまで同様、中間段階でのプレゼンテーションは生徒の興味あるテーマを、そして最終回は講師の指示により社会科学（アメリカ史）を共通テーマとして取り上げ、各人には、これに関連するテーマを個々に与え、実施しました。この社会科学授業はCorey先生が各クラスへ回り、基礎的な関連の知識を教えることを中心に約3回授業を行いました。充分とは言えませんが、後に、この分野への興味の呼び水となれば幸いです。プレゼン準備で、勉強したことが身につくものと思います。

以上のように、この最終回のテーマ選びは、生徒の知識のスパンを広げることと、各自のプレゼンテーション後、それぞれのテーマおよび共通テーマについて全員でディスカッションを行うためです。

このディスカッションはクリティカルシンキングを助成する上で、重要と位置付けています。従って、単にプレゼンテーションだけで終わらせず、そのあと、ディスカッションに持ち込むことを仕組んでいます。このためには、生徒間である程度、知識を共有する必要があり、プレゼン内容に共通性を持たせているわけです。

お蔭様で、生徒の多くはプレゼンテーションに慣れて来ております。逆に、マンネリを避けるため、また、自分が行なったプレゼンがどの様に思われているか（評価されているか）を知っていただくため、講師による評価制度を設け、実施しています。プレゼンは人に理解してもらうことが重要となるため、また、生徒のモチベーション維持向上のためです。

また、クリティカルシンキングについては、プレゼンテーション後のQ&Aやディスカッションが重要となります。回を追う毎に、プレゼン後に行われるディスカッションに多くの時間を取り、こちらへ重心を移して行けたと思っています。今季、前回に続き、小学生がディスカッションに参加する姿が目立ちました。質問内容には不十分な所もありますが、質問するにはある程度理解が無いと出来ないものです、また勇気も要ります。未だ、十分とは言えないまでも、共通テーマ「人間の平等とななにか?」「独立戦争はなぜ起こったか?」を全員でディスカッションすることができました。未だ、小学生にはハードルが高い為、上級生が中心ではありましたがディスカッションらしい内容となっていました。このことは、小学生にとっても、今後、どの様に行うべきかを示す機会となったことと思います。徐々にあるべき姿に近づいてきましたといえます。

また、この様な発表の機会を父母同士の交流の場としてご利用頂くのもよいと思中間プレゼン時に合わせ父母会を開催しました。そこでは日本の教育の状況、特に、中学進学の問題についてディスカッションしました。

このプログラム紹介は、次号につづきます。

表-1：帰国子女向、バイリンガル教育（補習校）プログラム・日程表
LESSON SCHEDULE OF US EDUCATION FOR RETURENNES
Spring Term 2006 Afternoon Classes (14:00-16:00)
Elementary 10-11 years old ②

| Date | CURRICULUM | OUTLINE CONTENTS | REMARKS |
|------------|-----------------------------|---|--------------------------|
| 1 4/15 | ORIENTATION | EXPLANATIONS ON CONTENTS OF THE PROGRAM FOR THIS SEMESTER | 1H |
| | ENGLISH LEARNING | Mini-discussion,debate/Vocabulary works | 1H HW: weekly diary |
| 2 4/22 | ENGLISH LEARNING | Mini-discussion,debate/Vocabulary works and focusing on students' weak area | 1H HW: weekly diary |
| | CREATIVE WRITING (ESSAY) | Writing essay or composition | 1H HW: reading a book |
| 3 5/13 | ENGLISH LEARNING | Mini-discussion,debate/Vocabulary works and focusing on students' weak area | 1H HW: weekly diary |
| | READING, WRITING | Reading & discussions based on the article, also creative writing based on the content. | 1H HW: reading a book |
| 4 5/20 | SOCIAL STUDY | WORLD HISTORY | 1H HW: weekly diary |
| | SOCIAL STUDY | WORLD HISTORY | 1H HW: writing essay |
| 5 5/27 | ENGLISH LEARNING | Mini-discussion,debate/Vocabulary works and focusing on students' weak area | 1H HW: weekly diary |
| | READING | short stories,articles from textbooks which again will be lead to discussion | 1H HW: reading a book |
| 6 6/3 | ENGLISH LEARNING | Mini-discussion,debate/Vocabulary works and focusing on students' weak area | 1H HW: weekly diary |
| | P REPARATION & PRESENTATION | Mid-term presentation | 1H HW: writing essay |
| 7 6/10 | SOCIAL STUDY | WORLD HISTORY | 1H HW: weekly diary |
| | SOCIAL STUDY | WORLD HISTORY | 1H HW: reading a book |
| 8 6/17 | ENGLISH LEARNING | Mini-discussion,debate/Vocabulary works and focusing on students' weak area | 1H HW: weekly diary |
| | READING | Short stories, articles from textbooks, which again will be lead to discussion | 1H HW: writing essay |
| 9 6/24 | ENGLISH LEARNING | Mini-discussion,debate/Vocabulary works and focusing on students' weak area | 1H HW: weekly diary |
| | CREATIVE WRITING (ESSAY) | Writing essay or composition | 1H HW: writing essay |
| 10 7/1 | PROJECTWORK (preparation) | Working together to prepare for final presentation | 1H HW: weekly diary |
| | READING | Short stories,articles from textbooks which again will belead to discussion | 1H HW: reading a book |
| 11 7/8 | SOCIAL STUDY | WORLD HISTORY | 1H HW: weekly diary |
| | SOCIAL STUDY | WORLD HISTORY | 1H HW: writing essay |
| 12 7/15 | PROJECTWORK (preparation) | Preparation for final presentations Advices on drafts, some tips on public speaking | 1H HW: weekly diary |
| | PRESENTATION | Final presentation | 1H |

千葉 紘一
ちば こういち
ABCD学院 学院長

ABCD 学院

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-12
TEL:03-5365-1341 FAX:03-5365-1340
<http://www.abcdco.jp/>



帰国子女の10オクラスのプログラムの詳細な紹介です。
上の表-1でよく分かるように、現地校での学習と同じような、EnglishとSocial Scienceの内容が含まれています。
週日は現地校、土曜日に補習校で学んでいる北米の子ども達と同じです。これが「英語補習校」のコンセプトです。日英二つの言語による、イメージ教育のプログラムです。

そのカリキュラムの中に、クリティカル・シンキングとプレゼンテーションの指導とトレーニングを意識的に組み込んであるのが、このABCD学院のプログラムの特徴です。